ま・ち・か・どズームIN！

みなさんからのすてきな情報を待ってます！

超高速ネットの有用性を実体験

白石一小と米沢の小学生が交流

総務省東北総合通信局では、インターネットの100倍以上という超高速ネットワーク「ＪＧＮⅡ」を介して白石第一小と山形県米沢市の愛宕小学校間を接続し、高精細動画によるテレビ会議システムを使って両校児童の相互交流を５月末から約２カ月間にわたって実施しました。

６月24日に市情報センター「アテネ」で開催された東北総合通信局主催の推進フォーラムでは、白石第一小の６年３組の皆さんが、「ネットでｅ-友達（ともだち）」と題した公開交流を行いました。

両市の歴史も調べていた白一小の子どもたちは、「（伊達氏と上杉氏は）昔戦った仲なので、これを機会に仲良くしましょう」と力強くアピール。米沢の子どもたちとお互いの学校や児童会、両市の物産などについて楽しく交流発表し、超高速ネットの快適さ・便利さを身近に感じていました。

満100歳を祝福

佐々木たつさんに松竹梅敬老祝金

８月１日に満100歳の誕生日を迎える佐々木たつさん（大平森合）宅を川井市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金100万円を贈り、長寿を祝福しました。祝福を受けたたつさんは感無量のご様子。「ありがとうございます」と市長としっかりと握手を交わされていました。

たつさんは、明治37年に福岡長袋でご誕生され、佐々木家に嫁がれました。毎日３食好き嫌いなくしっかり食べ、ほとんど入院したことがないとのことです。

電子投票の普及に向けて

参院選投票日に模擬電子投票

総務省では、今後の電子投票の普及に向けて、７月11日に実施された参議院議員通常選挙の投票日に、白石市と京都市東山区の全国２カ所で、投票所出口近くで電子投票の模擬投票を実施しました。

白石市で模擬投票が実施されたのは、白一小・白二小・中央公民館・福岡公民館の４ヵ所。比例代表選出議員選挙などを想定した本番さながら模擬投票に、「電子投票経験者」の立場で、2,000人を超える市民の皆さんが協力しました。

楽しい野外活動を実体験

ボーイスカウトまつり

７月４日、ボーイスカウト白石第１団が企画して、白石第一小学校体育館と校庭を会場にボーイスカウトまつりが開催されました。

この野外活動やボーイスカウト活動の素晴らしさをＰＲするための催しには、隊員の子どもたちや見学に来た親子連れなど約300名が参加。竹筒での炊飯やねじりパン作り体験、杉鉄砲づくりなど、スカウト活動の一部が楽しく紹介されました。白石第１団では、隊員を随時募集中（問☎26-2612）とのことです。

日本本土で初・３演武が一堂に

沖縄空手道・古武道・琉舞演武大会

６月20日、沖縄剛柔琉空手道古武道会では、同会の道場「無心館」創立20周年などを記念して、中央公民館で沖縄空手道・古武道・琉舞の演武大会を開催しました。

３演武が一同に集まる大会は、日本本土では初めてとのこと。琉舞を沖縄県無形文化財指定の方も演じたのをはじめ、世界に誇る文化遺産を間近で見られる大変貴重な機会とあって、観客たちは、見事な演武が披露されるたびに盛んな拍手を送っていました。

家族と一緒にお祝いしました

第二幼稚園が開園30周年

昭和50年７月に開園し、今年で開園30周年を迎えた白石市第二幼稚園で、７月９日、盛大に記念式典が開催されました。

▲式典の第２部では、「虹のカーニバル」をテーマに、ボールプールなど楽しいあそびのコーナーが設けられました。お母さんたちなどの出し物披露や花火大会も催され、園児たちは、家族で楽しい夜のひとときを過ごしながら開園30周年を祝いました。

刈田病院旧新館の内外装を一新

介護老人保健施設「清風」オープン

医療法人社団清風会が、移転新築された旧刈田綜合病院跡地の一部を借り受け、旧新館をリフォームして整備していた介護老人保健施設「清風」が７月からオープンしました。

100床のベットを備え、通所サービスにも取り組むこの施設。刈田綜合病院をはじめとした地域の医療機関との連携を図り、地域の人々に親しまれ、愛される施設を目指すとのことです。

▲施設西側からは白石城の景観が見事です。

川井市長のせせらぎトーク

「アテネとシリウス」

６月はうれしいことが二つあった。一つは、ＪＧＮ（ジャパン・ギガビット・ネットワーク）Ⅱという超高速回線の実験事業を東北総合通信局の主催により、白石市情報センター・アテネが主会場になり、アテネに白石第一小学校の児童が集まり、米沢市愛宕小学校の児童と臨時回線を結んで遠隔交流の体験フォーラムを開いたことである。白石一小の子どもたちは、物おじをせず、堂々と先端技術を使いこなしていた。

伊達政宗は、米沢で生まれ、この地より興って東北を制覇した。片倉小十郎景綱は、置賜郡下長井庄宮村の八幡宮宮司片倉景重の息子であり、政宗の父輝宗に見いだされて、政宗の守り役となる。以来、伊達家の参謀長的な役割を果たし、一六〇二年白石の地を拝領した。

そして、奥羽越列藩同盟である。戊辰の役の時、会津救援のため、米沢藩主上杉家と伊達家が主導して同盟を結ぼうという会盟の地が、白石であった。これは、ご承知のように奥羽越の中央に対しての独立運動である。このように歴史的に縁の深い白石と米沢が、今は最先端技術によって結ばれる。

昭和六〇年代、まだ、デジタルもＩＴも一般的でなかった時代、私は二十一世紀をリードするものは、情報化であろうと考えた。当時は、ニューメディアの時代である。何とかテレトピアの地域指定をとりたいと運動したが、当時の郵政省は、福島エリア、米沢エリア、そして仙台エリアを指定し、白石エリアは空白地帯となってしまった。こうなれば、追いつき追い越さねばならない。郵政省がだめなら農水省へと、農業関係のニューメディア、グリーントピアの指定を受け、その後、郵政省の補助で約十一億円の事業費で情報センター・アテネを建設した。先行した米沢に追いついて、これからが地域間競争の勝負どころだろう。

二つ目は、社団法人社会経済生産性本部が選ぶ自治体グランプリ２００４で、白石市が優秀賞に選ばれたことである。これは小学生諸君の命名である生ごみ資源化事業所「シリウス」が評価されたものである。

私は、デジタル革命が進んだ後に来るのは、バイオマス（生物エネルギー）の時代だと考えている。バイオマスはゼロエミッション（廃棄物の排出をゼロにする）を目指す、二十一世紀の資源循環型社会の形成の最重要な手段である。

上戸沢の産業廃棄物処分場の十年闘争は、つらく長い戦いであった。しかし、反面、我々は環境に対する学習の機会をもつことができた。社会経済生産性本部は、設備を、つまりハードを重視したのではない。学習によって「捨てればごみ、分別すれば資源」を市民が充分に認識し、各家庭のごみの分別収集によってできた生ごみを発酵処理し、発生するメタンガスを燃焼して発電する一方、排熱を利用した温室を学校菜園、家庭菜園として活用し、農業を子どもたちに教えた点を高く評価したのである。

市は今、生ごみ十トン処理を目指して、そのソフトづくりの予算を計上した。

二十一世紀の鍵を握るＩＴとバイオマス。それが、アテネとシリウスという形で大きく評価されたことは、白石が二十一世紀の旗手への第一歩を踏み出したと考えている。